

< 平成 21 年度管理運営の基本的な考え方と重点施策 >

# 「宗像ユリックス新経営指針」第五次アクションプラン

## 平成 21 年度事業計画

平成 21 年 2 月

財団法人宗像市総合公園管理公社

< 目 次 >

1 . はじめに	1
2 . 平成 21 年度管理運営の基本方針及び重点施策について	
- 『宗像ユリックス新経営指針・第五次アクションプラン』 -	
( 1 ) 基本方針	2
( 2 ) 重点施策	
文化事業	3 ~ 6
本館運営 ( 営業・貸館事業 )	7 ~ 8
プラネタリウム運営	9 ~ 10
アクアドーム運営、健康レクリエーション事業	11 ~ 12
( 3 ) 運営全般	
施設管理・安全管理	13
運営体制	13 ~ 14
財政運営	15

## 1. はじめに

米国発の金融危機の悪影響は、日本においても派遣職員の契約打ち切りや企業の人員削減など具体的な事例が顕著となり、ますます深刻なものとなってきた。政府も経済危機の打開策をあれこれと模索をしているものの、内閣総理大臣の交代や選挙がらみの思惑などがからみ、政局も安定せず、景気回復は依然として長いトンネルの中の感がある。

この現状は、宗像ユリックスにとっても、対岸の火事ではすまされない状況にある。

そうしたなか、平成 20 年度、宗像ユリックスは開館 20 周年を迎え、コラボ劇「姫神の宝物」や宗像市出身の画家、中村研一・琢二の作品を中心とした「福岡県立美術館所蔵品巡回展」など多くの記念事業を実施し、お客さまからも高い評価をいただくことができたと思っている。

さて、平成 21 年度に目を向けると、当財団が宗像市から第一期指定管理を受けている期間の最終年度であり、と同時に「第二期指定管理」<sup>1</sup>を勝ち取らなければならない、まさしく正念場の年となる。その対策として、第二期指定管理提案書作成の基礎資料となる「宗像ユリックス第二期経営指針」<sup>2</sup>を作成するため、事務局内に「第二期指定管理対策委員会」<sup>3</sup>を設置した。そして、今後も宗像市の動向を見極め、あらゆる情報を収集しながら、第二期指定管理獲得に向けて対応していきたいと考えている。

また、事業の選定については、宗像ユリックスが宗像市の文化行政の一翼を担うとの強い意識を持ち、引き続き各地区コミュニティ運営協議会や幼稚園、小・中学校等の教育機関、文化団体等との連携を深めながら、参加・育成型の事業を強化していきたい。

特徴的な事業としては、宗像大社や鎮国寺とゆかりの深い、「空海」を題材とした能の上演を予定している。公演成功に向けて、一般的に難しいとのイメージがある能や狂言について初歩的な知識が学べるワークショップを、鎮国寺や宗像ユリックスで計画的に実施することで鑑賞者層の拡大を図り、日本独自の芸術である能の普及を目指したい。

また、非常に人気の高い「ゆりっくす日曜百円寄席」をヒントに、「アマチュア落語フェスティバル」を計画し、宗像ユリックスを全国にPRすると同時に、全国から多くの参加を期待している。さらに、「宗像・宮若演劇交流事業」を実施し、隣接する宮若市との連携を強める。

その他には、組織力の向上を目指すために「新人事管理システム」<sup>4</sup>の完全実施や、待遇などの各種研修等をさらに充実させ、当財団が長期的に宗像ユリックスを運営できる体制を強化していきたい。

---

<sup>1</sup> 平成 22 年 4 月 1 日以降の宗像ユリックスの指定管理。期間については、現時点では未定。

<sup>2</sup> 「宗像ユリックス新経営指針」に続く、以降 5 年間の宗像ユリックス運営の在り方についての経営指針。対応した毎年度ごとに具体的数字目標の設定を盛り込んだアクションプラン（事業計画）を策定。

<sup>3</sup> 「宗像ユリックス第二期経営指針」策定のため、平成 20 年 7 月 4 日に設置。現在、第二期指定管理提案書の基礎資料として作成中。

<sup>4</sup> 平成 19 年 3 月策定。平成 21 年度より、その中の「宗像ユリックス人事評価制度」を本施行予定。

## 2. 平成 21 年度管理運営の基本方針及び重点施策について

- 『宗像ユリックス新経営指針・第五次アクションプラン』 -

### (1) 基本方針

平成 21 年度は、宗像ユリックス新経営指針 5 ヶ年、宗像ユリックス第一期指定管理 4 ヶ年の最終年度であり、大きな節目の年となると考えている。また、宗像市において、第二期指定管理者の選定が行われるため、当社は、最大の努力を行い、第二期指定管理を獲得する。

会社の運営の基本となる人材（人財）については、「新人事管理システム」の完全実施をおこない、職員一人ひとりのスキルアップをはかる。また、第二期指定管理の獲得や公益法人改革に向けて、宗像市からの派遣職員や中核・専任職員など今後の会社の職員体制について検討していく。

財政運営に関して、収入部門では、景気悪化の影響を受け、文化事業のチケット販売収入や各施設の利用料金収入が落ち込むことが懸念されることから、魅力ある企画や様々なサービスメニューの開発などに努める。また、各方面からの補助金の確保などの努力もあわせて続けていく。支出部門については、より一層の経費削減努力を行いながら、第二期指定管理に向けて業務内容の精査を行っていく。

文化事業については、参加・育成型の事業が多く市民から評価を受けている。特に昨年度開館 20 周年記念事業としておこなったコラボ劇「姫神の宝物」や「福岡県立美術館所蔵品巡回展」などは、多くの市民の参加を得て今後の会社の大きな財産となった。今年度もこの経験を活かし、発展させる事業に取り組んでいく。また、収支面については、鑑賞事業のチケット販売数を伸ばす努力が最も重要と考え、PR 活動などの工夫、努力をおこなっていく。

公益法人改革については、会計システムの一部変更と申請に向けた準備にかかる。申請時期については、平成 23 年度を考えており、これからの 2 年間で相当量の事務作業を行っていく必要がある。

### 【今後の主なスケジュール】

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
【指定管理】						
		第二期指定管理 H 18.4～H 22.3	第二期指定管理 H 22.4～H 26.3（想定）			
【法人改革】		第二期指定管理者の決定				
	H20.12 法施行					H25.11 申請期限
	5年の間に公益法人への移行申請手続き					
		公益認定申請準備	移行申請手続き (申請 審査 認定)			

## (2) 重点施策

### 文化事業

「事業本数」、「入場者数」など量的側面において開館以来の高水準に達しているなか、宗像ユリックス新経営指針に沿って進めている「鑑賞型から参加・育成型へのシフト」により質的側面についても一定の成果があがっている。

平成 21 年度の文化事業の方向性は、参加型・育成型事業の継続と企画内容の充実である。これを進めるにあたっては、事業本数の精査を進め、文化事業担当職員が事業に集中して取り組む環境をつくる。

鑑賞型事業の収支改善と参加型・育成型事業の企画内容の充実により、地域文化振興を促進し、次期指定管理者としての事業展開体制を構築する。

### 参加型・育成（普及）型事業の継続と企画内容の充実

平成 20 年度は開館 20 周年の記念事業としてコラボ劇「姫神の宝物」を上演した。公募による 9 名の劇団員と地域で活躍する 9 団体、総勢 200 名が 1 年がかりで創り上げ、1,500 人を超えるお客様へ大きな感動を与えた。この事業で宗像ユリックスの今後の事業の方向性を示すことができ、参加型・育成型事業の重要性を再認識した。

平成 21 年度は、九州管楽合奏団の学校公演・クリニックを核として、「チルドレンズミュージアム」、「ピアノでつなぐ音楽会」、「公共ホール音楽活性化支援事業」などを実施する。特に「公共ホール音楽活性化支援事業」は（財）地域創造の助成を受けての活動の最終年となる。アウトリーチ事業は、芸術普及活動・文化活動支持層の拡大、アーティストとの密接なつながり、地域の利便性の平準化など多くの利点がある。平成 22 年度以降も宗像ユリックス単独で継続する為に、平成 21 年度はアーティストの選定・登録から実施までのオペレーションの構築を行なう。

また、九州管楽合奏団のクリニックは市内の中学生・高校生の間で定着をし始めており、結果として九州管楽合奏団定期公演の入場者数増加（H 19 年度 273 人 H 20 年度 461 人）につながっている。平成 21 年度も学校公演・クリニックを積極的に実施する。

### むなかた活性化事業（仮称）

～「宗像・宮若演劇交流事業」・「玄海ドリームバンドコンサート」～

芸術には、人と人をつなぎ、地域を活性化させる力がある。地域で活躍する文化団体にスポットをあて、支援することでその団体の活動が認知され、さらには、宗像ユリックスが地域で必要とされる公共ホールとして認知されることをこの事業のねらいとする。

### ～ 能 「空海」～

能は日本独自の芸術であり、その魅力を伝え、普及させることを目的に平成18年度より毎年事業を実施してきたが、継続実施する為には鑑賞者層の拡大が必要である。本事業では、ワークショップなどを公演前に実施することで、新たな鑑賞者層の拡大を図ることを第一のねらいとする。

また、地元観光資源である鎮国寺が空海（弘法大師）ゆかりの寺であることにちなみ、人気・実力ともに現代を代表する観世流シテ方の能楽師である第五十六代 梅若六郎氏の新作能「空海」を演目とし、マスコミを活用した広報活動を行うことにより、広域での「むなかた」の認知度をあげることを第二のねらいとする。

### 宗像市との文化事業に関する連携強化及び地元文化団体との連携

平成20年度は開館20周年記念事業として、福岡県立美術館所蔵品巡回展「移動美術館展 大きなクスの木の下で」を開催し、約1,500人の市内の小学生・中学生が中村研一・琢二の作品をはじめ県立美術館が所蔵する作品を鑑賞した。これだけ多くの小学生・中学生に鑑賞の機会を提供できたことは、宗像市及び教育委員会との連携によるものである。

本年度においても、宗像市及び教育委員会との共催による美術展を1月に開催予定であり、市との連携を積極的に進め、事業効果を高めていく。同様に地元文化団体との連携も計画的に実施していく。

### 営業力強化による事業収支の改善

参加型・育成型事業への取り組み強化を行なっていくなかで、鑑賞型事業の収支改善が必要となってくる。百年に一度といわれる経済環境の悪化が進むなか、収支を改善するにあたり、以下の項目について重点的に取り組む。

収支を強く意識するマインドの醸成

チケット販売計画の早期立案と進捗管理

P.D.C.A.サイクルでの事業管理

特定事業（九管ポップスコンサート等）を設定し事業部全員で実施

## 【 数値目標 】

事業本数 【50本】

平成 21 年度は、未確定事業及び共催事業を含め年間 50 本とする。平成 21 年 2 月現在、古典芸能 5 本、クラシック 5 本、音楽 5 本、演劇 4 本、アウトリーチ 3 本、美術 3 本、映画 15 本、その他 6 本、合計 46 本が決定している。

**事業本数（ジャンル別）**

20 年度は見込値、21 年度は目標値

事業ジャンル	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
音楽(クラシック)	7	9	7	7	5
音楽(クラシック以外)	10	6	9	8	5
映画	16	20	20	15	15
演劇・古典芸能	11	9	9	9	9
美術	2	1	2	3	3
アウトリーチ		6	5	7	3
その他	13	11	17	12	6
未確定事業					4
合計	59	62	69	61	50

平成 18 年度からジャンルにアウトリーチを追加。(18 年度以前は各ジャンル内に含む)

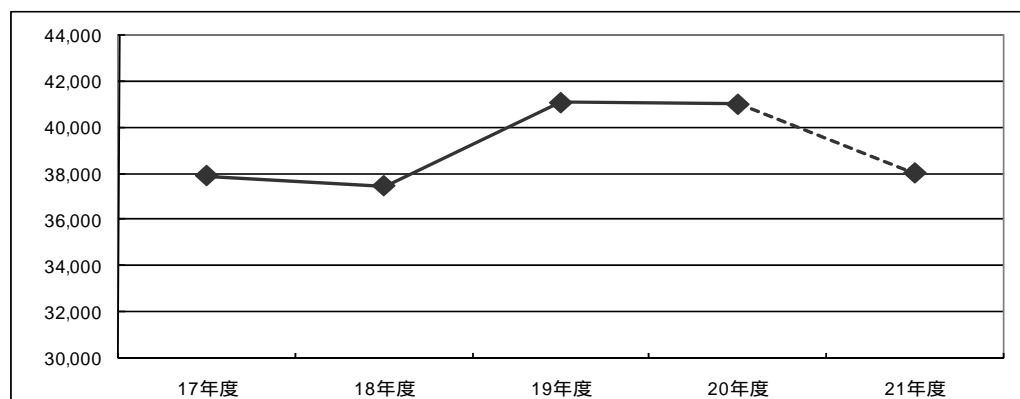
入場者数 【38,000 人以上】

入場者数は、事業本数 50 本実施を前提条件として、最低 38,000 人を目標とする。平成 20 年度同様、事業毎の目標を明確にし、達成に向けた施策の立案・実施を行なう。特に九管ポップスコンサートなどの特定事業については、事業部全員で P.D.C.A. の管理サイクルを徹底し、チケット拡販を行う。

**文化事業・入場者数の推移**

20 年度は見込値、21 年度は目標値

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
入場者数	37,883	37,439	41,070	41,000	38,000
対前年比	181.6%	98.8%	109.7%	99.8%	92.7%
対前年人数	17,025	444	3,631	70	3,000



**「ユリックス倶楽部」会員数 【4,000人以上】**

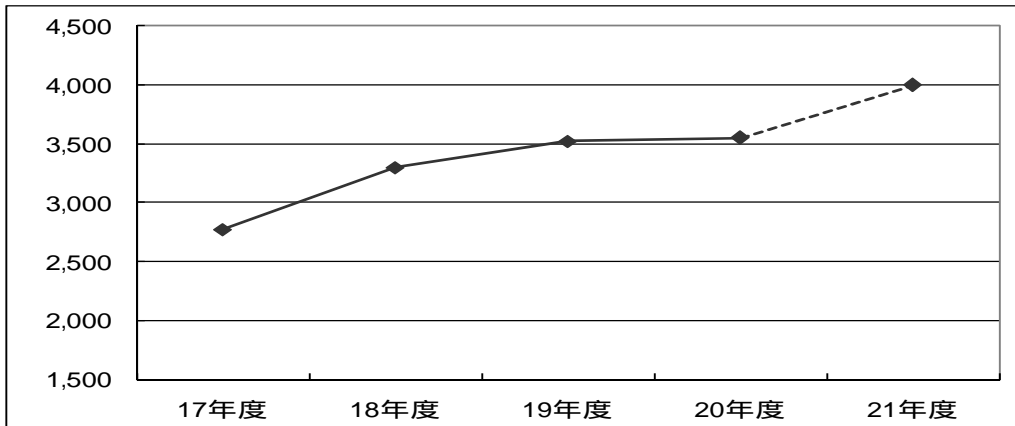
会員数目標 4,000人（前年会員数 3,553人、前年比 112.6%）とし、以下の対策に取り組む。

- インフォメーション、電話でのチケット購入時の勧誘の徹底
- 館内告知の強化
- 事業実施時の専用カウンターの設置
- 映画事業での上映前のユリックス倶楽部告知
- 勧誘チラシの新聞折込（宗像市・福津市・宮若市）
- 前年会員で非継続会員へのダイレクトメール（宗像市・福津市・宮若市）

**「ユリックス倶楽部」会員数の推移**

20年度は見込値、21年度は目標値

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
会員数	2,772	3,300	3,521	3,553	4,000
対前年比	130.1%	119.0%	106.7%	100.9%	112.6%
対前年人数	642	528	221	32	447





## 本館運営（営業・貸館事業）

お客様・利用者ニーズを敏感に感じ取りながら、常に業務改善を行い、年間利用者数、施設稼働率、利用料金収入の「トリプルUP」を目指す。そのためにこれまで取り組んできたサービスをさらに充実させるとともに、常に新たなサービス<sup>5</sup>を導入する視点を持ち、トリプルUPと合わせて顧客満足度アップ、公社独自収入である手数料収入等についてもアップも図る。

さらに、お客様に対して利用のお礼状だけでなく、施設抽選日のお知らせなどのダイレクトメールや電話等を通してお客様の期待を超えるサービスを提供することで、インフォメーションが“宗像ユリックスの顔”として、お客様との繋がりをより深いものにしていく。

また、宗像ユリックスの弱点である「夜間区分」<sup>6</sup>の貸出について、平成20年度に行なったスタジオ当日申請半額サービスや夜間有料学習室など、ニーズのある取り組みを継続的に実施し、夜間区分の利用率35%を目指す。

さらに、ホームページについて利用者に知らせたい情報だけでなく、利用者が欲しい情報の掲載という2つの観点を再認識し、更なる充実を図る。

なお、東側ゾーンの「改修工事」<sup>7</sup>を行い、6月から貸出施設（会議室）を2部屋増設し、他の施設と同様に利用されるよう十分にPRを行う。

## 【 数値目標 】

3大施設平均利用率(日数)80%以上【大ホール80%、中ホール80%、展示室85%】

	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度
	日数	区分	日数	区分	日数	区分	日数	区分	日数	区分	日数目標
大ホール	71.4	56.6	84.7	63.1	77.0	59.5	86.1	62.2	75.0	53.6	80.0%
中ホール	81.8	58.8	83.0	58.0	83.4	58.7	83.2	60.1	78.8	55.4	80.0%
展示室	89.8	72.8	78.9	62.7	84.7	65.0	87.0	58.9	89.1	72.9	85.0%

利用率の「日数」は、貸出可能日のうちの利用状況で算出。  
 利用率の「区分」は、貸出可能区分のうちの利用状況で算出。（貸出区分は1日3区分）

<sup>5</sup> 当初21年度に予定していた「大型ロッカーの設置」「切手等の販売」は、20年度に実施済み。新規サービスとして「カラーコピー機の設置」等を予定。また、本館内の飲料の自動販売機についても平成21年4月より、台数・設置場所・種類を増やして館内に設置予定。

<sup>6</sup> 施設については、午前（9時～12時）、午後（13時～17時）、夜間（18時～22時）の3区分で貸出。

<sup>7</sup> 4月・5月に「青少年センターのメイトム宗像への移設改修工事」及び「空調機器の改修工事」を実施。

本館等利用者数 600,000 人以上 / 本館等利用料金 69,800,000 円以上

本館利用者数・利用料金の推移

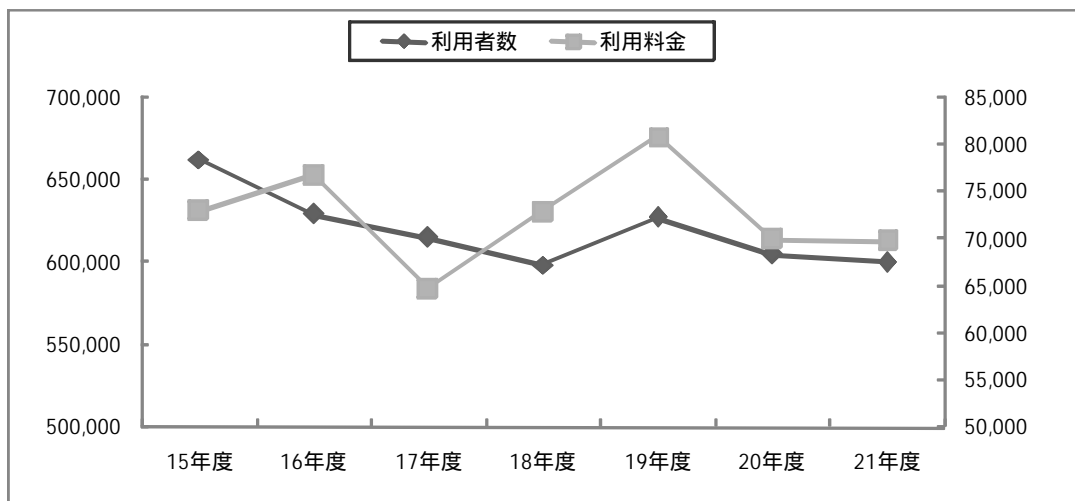
20年度見込値、21年度は目標値

単位:利用者数(人)、利用料金(千円)

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
利用者数	662,361	629,287	615,071	598,141	627,186	605,000	600,000
利用料金	72,973	76,756	64,665	72,850	80,859	69,906	69,800

※利用者数：一般施設、テニスコート、図書館等の北ゾーン利用者の合計人数。

※利用料金：一般施設、テニスコートの利用料金の合計金額



## プラネタリウム運営

特定非営利活動法人エム・ワイ・ピー（以下「MYP」）との「協働」運営の4年目であり、基本的な事業の方向性・指針はこれまでどおり「地域に愛されるプラネタリウム」を目指すことを第一に事業を展開する。

平成21年度は、第二期指定管理の獲得および設備リニューアルに向けて、改善点を洗い出し、利便性と満足度の向上を目指す準備の年度と位置づける。

番組開始時刻について、お客様からの要望などをもとに、夏休みに試験的に時間変更を行い、この状況をさらに検討して平成22年度にさらに改善を検討する。

3番組化を始めて3年目を迎え、このスタイルが確立されてきた。特に季節番組では、職員による生解説を実施することで、顧客満足度の向上につながった。これは九州の他のプラネタリウムではあまり行っていない「宗像ならではの」手法である。

さらにリニューアルを前提に、新たな手法の演出による必要な解説技術の向上を目指し、現時点で可能なものは実施していく。7月22日に皆既日食<sup>8</sup>があるため、迫力あるCG演出をはじめ、平成19年度にほしぞらスタッフ（ボランティア）が開発した「日食投影機」を駆使した番組制作を実施する。

こども番組は、リニューアル後に新シリーズをスタートさせる準備をすすめ、プラネタリウムにより親近感を持っていただくためにキャラクターデザインの一般公募を検討する。新キャラクターが、第二期指定管理期間内に宗像ユリックスのこども向けイメージキャラクターとして定着していくことを目標とする。

スペシャル番組は、リニューアル後の番組制作を考えながら、CGとプラネタリウムの星との融合を活かした演出により、より楽しめるものを制作する。

学習番組は、平成21年度はリサーチを実施する。学習指導要領改訂に伴い、現場の教員や理科部会とタイアップし、意見をいただきながら、改善点をピックアップしリニューアルに向けて修正を行う。

イベントについては、7月22日の皆既日食、夏休みに大変好評な工作教室を行うとともに、大人向けとして「サイエンスカフェ」<sup>9</sup>の実施を目指す。平成22年度の本格的な事業を展開する前に、今年度は1～2回程度試験的に実施する。

ほしぞらスタッフ活動は8年目を迎え、活動が定着してきた。

ほしぞらウォッチングについても大変好評であり、今後もより一層力を入れて実施していく。また、毎年恒例となったほしぞらスタッフ参画番組「クリスマスのおくりもの」もすっかり定着し、毎年楽しみにしているお客様が着実に増えている。メンバーも確実に増えており、現在の活動を維持しつつ、より幅のある活動を目指していく。

また、プラネタリウムに関わる状況として、2009年は、ユネスコ・国際天文学連

<sup>8</sup> 46年ぶりに日本で見ることができる今世紀最大の皆既日食。宗像市でも89%ほど欠ける予定。

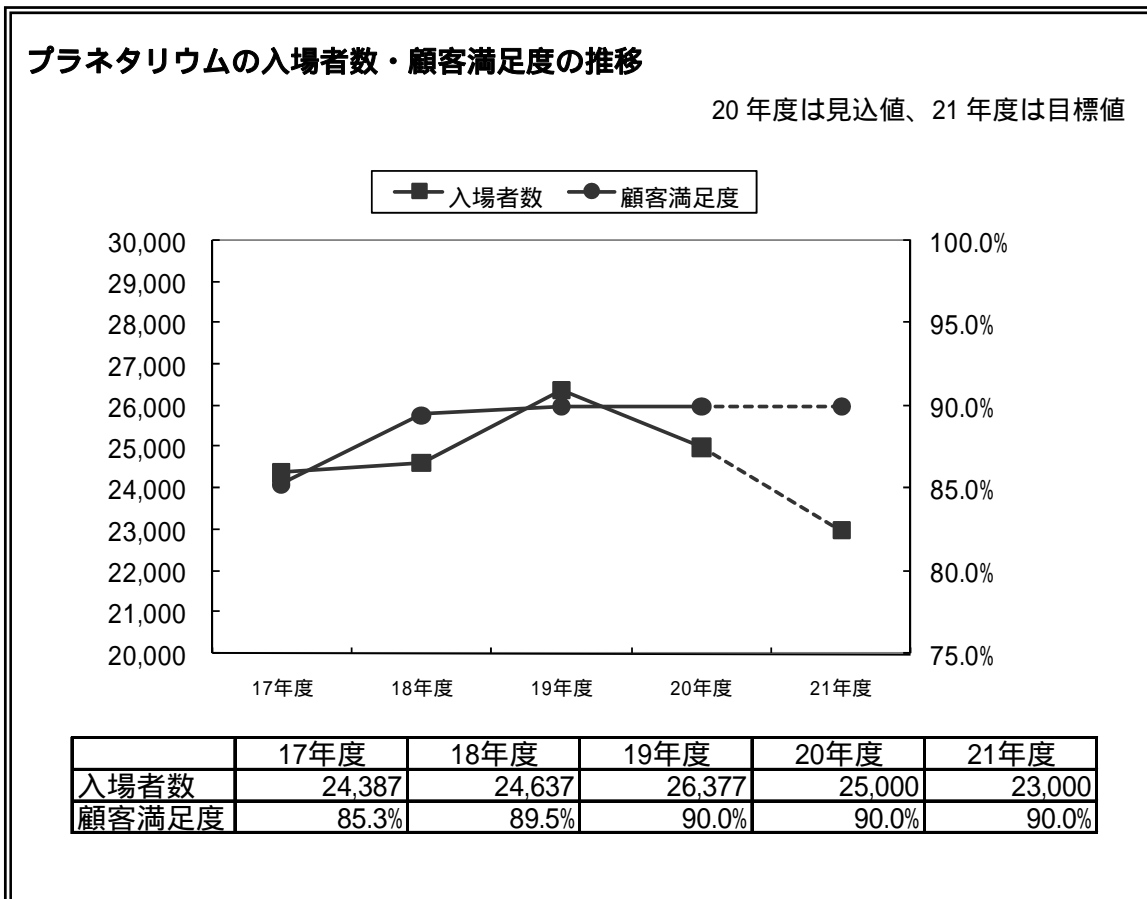
<sup>9</sup> 科学をテーマに専門家と市民が気軽に対話を楽しむイベント。少人数で専門家と会話を楽しむことで、科学をより身近に感じられるイベントを目指す。

合が定めた「世界天文年」である。世界 140 カ国が参加する国際的なイベントであるため、積極的に協賛し、より一層の天文普及に努めたい。

【 数値目標 】

入場者数 【23,000 人以上】

顧客満足度 【90%以上】



## アクアドーム運営、健康レクリエーション事業

### アクアドーム

基本的な方向性は、健康づくり拠点としての機能強化、一般利用者の増加策、宗像市関連部署との連携強化を指針とする。

#### 健康づくり拠点としての機能強化

健康づくり拠点としての機能強化策として、健康づくり運動の実践者となるウエルネスクラブ会員を増やすため、会則の見直し( 利用時間制限撤廃、40歳未満の会員種別新設)を検討する。また、特定保健指導修了者(アクアドーム・健診センター・訪問)にウエルネスクラブへの入会を促進するため、宗像市民に対して、アクアドームプログラムをPRする。

#### 一般利用者の増加策

特に平成20年度は、アクアドーム改修工事及び景気後退などにより、アクアドーム利用者数が減少した。年度別データを見ると、定期利用者が伸びた一方、一般利用者は減少傾向にあるため、今後はウエルネスクラブやプールの年間利用者からの紹介キャンペーンなど一般利用者増加策を行っていく。また、平成20年度実施の「アンケート調査」<sup>10</sup>からアクアドーム自体の知名度の低下が見て取れることから、広報紙や新聞折り込みチラシによるプログラム内容・運動効果の紹介を行っていくことで認知度を高めていく。

宗像市内の3大学(福岡教育大学、東海大学附属福岡短期大学、日本赤十字九州国際看護大学)在籍の学生が団体料金で利用できるように検討する。

#### 宗像市関連部署との連携強化

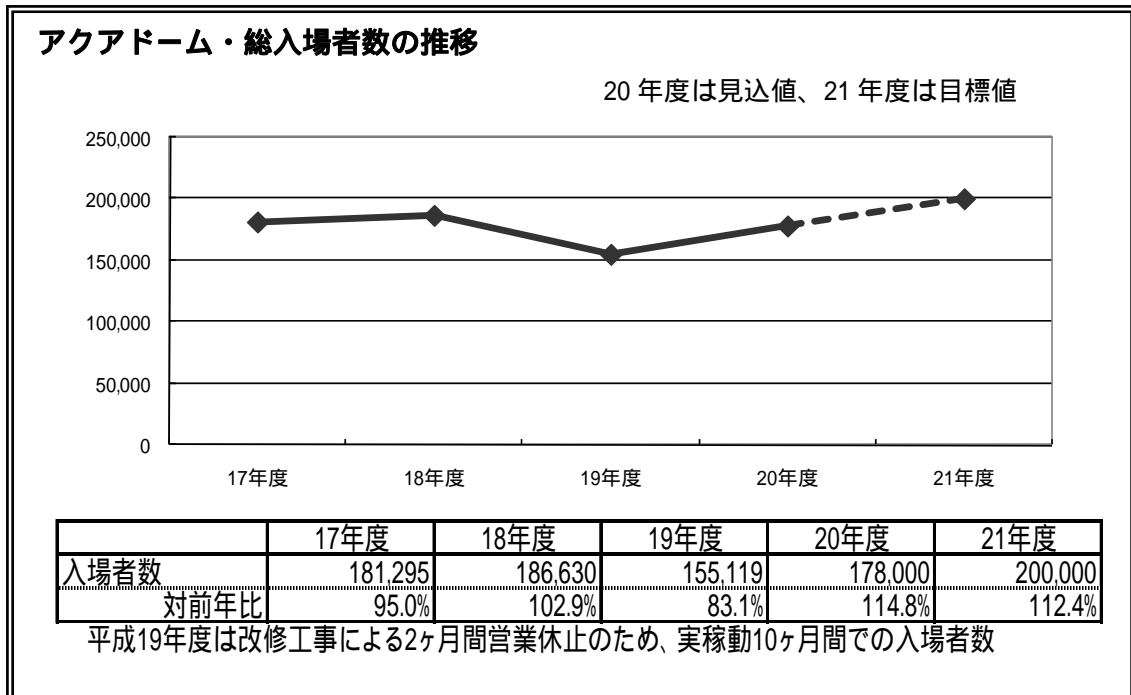
特定保健指導については、現在「6ヶ月プログラム」を実施しているが、さらに内容を充実させるために3ヶ月を単位とする「積極的支援アクアドームプログラム」案を作成する。なお、計画の作成、実施にあたっては、宗像市の関連部署とより一層連携を図っていく。

---

<sup>10</sup> 「宗像ユリックスに関するアンケート調査」H20年8月、宗像市民の宗像ユリックスの利用実態や利用満足を把握し、今後の施設運営の基礎資料として、18歳以上の市民2,000人を対象に実施。

【 数値目標 】

アクアドーム総入場者数 【200,000人以上】



パットゴルフ

利用者増加策として、利用の多いシーズン（3月～6月、9月～11月）に、宗像ユリックス主催事業でのチラシ折り込み、広報誌「ユリックス・サラダ」での告知を効果的に行う。

ゆ～ゆ～プール

ゆ～ゆ～プールでは、ファミリー層（幼児、小学生低学年）をターゲットとしたサービス展開や子ども会などの団体が利用しやすいパック商品の利用を拡大する。  
また、文化事業とプラネタリウム事業との共同チケットを販売する。

### (3) 運営全般

#### 施設管理(ハード)・安全管理

平成 20 年度は、お客様から要望事項であったハーモニーホール入口の手すりやトイレのウォシュレット設置などを実施した。これからもお客様の安心・安全を守るために安全総点検の実施や積極的な修繕を行っていく。

これまで懸案であった電気・空調設備などの現状調査が完了し、宗像市と保全工事について協議を進めた。今後は、本館の外壁タイルや屋上の防水などの点検などを心がけ、指定管理者として施設の保全に努めていく。

宗像市の実施している保全工事については、平成 20 年度に施工を予定していた本館東ゾーンの空調改修工事と「青少年センター跡」<sup>11</sup>の改修工事が平成 21 年 5 月にずれ込んだ。平成 21 年度から約 5 年間で、本館全体の設備(空調・電気)を改修する。今後も適切・効果的な保全工事実施のために宗像市との連携をさらに続けていく。

#### 組織・運営体制

宗像ユリックスが市民ニーズに応える運営を行っていくためには、組織・運営体制の在り方が重要な問題である。そのため、平成 20 年度は、現在運用している「新人事管理システム」に伴う「人事評価制度」<sup>12</sup>の運用を開始し、また、財団職員に対する研修を充実させるなど、一人一人の能力の向上と組織力の強化を図る。

また、平成 21 年度が計画の最終年度となる「宗像ユリックス新経営指針」の後に続く「宗像ユリックス第二期経営指針」策定のために平成 20 年 7 月に設置した「第二期指定管理対策委員会」での協議を発展させ、第二期指定管理の獲得を目指す。

---

<sup>11</sup> 平成 21 年 3 月末で、青少年センター(138 m<sup>2</sup>)は市民活動交流館(メイトム宗像)の敷地内に移動。

<sup>12</sup> 「宗像ユリックス人事評価制度」。平成 20 年度を試行期間とし、平成 21 年度運用開始。

<sup>13</sup> 正式名は「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」。

さらに、平成 20 年施行の「公益法人制度改革 3 法」<sup>13</sup>に伴う公益法人認定取得のため、理事会・評議員会など統治機構の在り方をはじめとした諸課題について準備を行っていく。公益法人認定についてはこれらの問題を解決し、平成 23 年度中の移行認定を目指す。

<b>組織・人員体制の推移</b>					
20 年度は 12 月末現在、21 年度は 4 月予定					
	17年度 (18年3月末)	18年度 (19年3月末)	19年度 (20年3月末)	20年度 (20年12月現在)	21年度 (21年4月予定)
市派遣職員	8	6	4	3	3
プロパー職員	5	7	3	3	3
専任職員	-	-	1	2	2
嘱託職員	9	9	10	9	9
臨時職員	37	38	17	18	19
人材派遣	6	-	-	-	-
合計	65	60	35	35	36
特記事項	18年3月末 人材派遣職員廃止	第1期指定管理 (1年目) 19年3月末 指定管 理期間満了により正 助ふるさと村部廃止	第1期指定管理 (2年目) 19年4月 新人事管理 システム運用開始	第1期指定管理 (3年目) 人事評価制度 試行開始	第1期指定管理 (4年目) 最終年度 人事評価制度 本施行開始
総務部					
事業部					
正助ふるさと村部			-	-	-



## 財政運営

第一期指定管理期間の最終年度となる平成 21 年度は、「指定管理者として安定的な管理運営を遂行するため、中長期の財政状況を展望し、できる限り経常経費の圧縮、削減を進める」という従来の運営指針を引き続き堅持する。また、現在運用中の「新・公益法人会計方式」による予算科目・部門別及び宗像ユリックス全般の管理運営状況についてのデータ蓄積を活かし、第二期指定管理獲得を目指す。

そのために、「オフィシャル・パートナー制度」<sup>14</sup>の活用や、ユリックス倶楽部会員及び施設利用料の増加、自販機業者の精査による手数料収入増加等の独自財源の確保、主要委託業者の精査による委託料の減額等、財務体質の改善を図っていく。

また、平成 20 年度施行の「公益法人制度改革 3 法」に基づく新しい公益法人会計への移行に向けての準備を行う年度でもある。

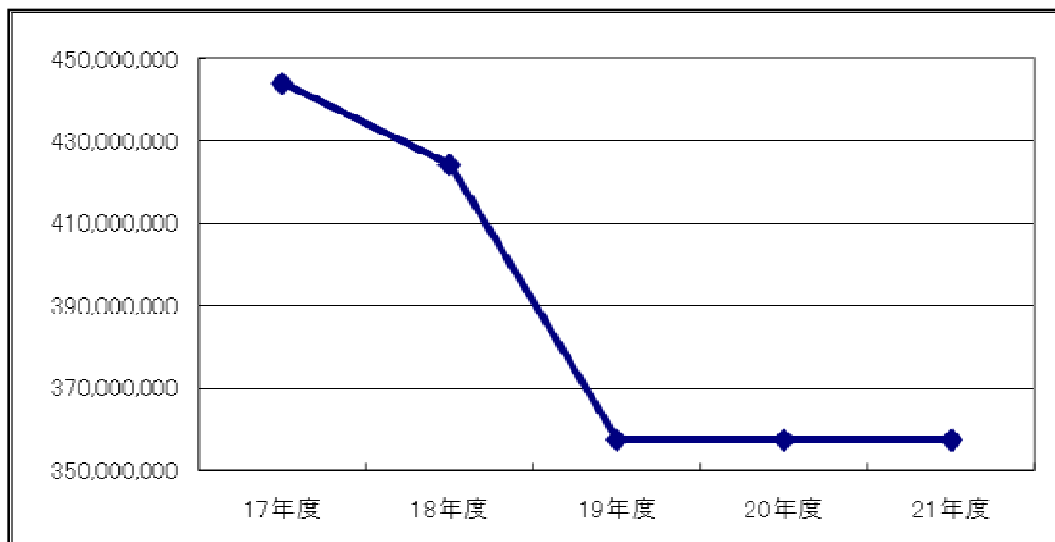
### 管理運営コストの推移

予算ベース	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
管理運営コスト	444,040,000	424,236,000	357,308,000	357,308,000	357,308,000
委託料補助金	590,866,000				
施設使用料	146,826,000				
対前年削減率	93.56%	95.54%	97.28%	100.00%	100.00%

※17年度は「委託料補助金－施設利用料」で算定。

※19年度より正助ふるさと村分経費分離（平成18年度実績額：56,928,000円）

※19年度の対前年削減率は18年度正助ふるさと村経費削減分（367,308,000円）と比較



<sup>14</sup> 宗像地域の文化振興を目的とした支援制度。パートナー料は宗像ユリックスの文化事業（特に参加型・育成型事業）へ活用。平成 19 年 1 月 26 日、宗像医師会と協定を締結し、平成 21 年についても更新。